# 2009年6月21日　主日礼拝メッセージ

**聖書箇所：イザヤ書65章17～25節**
**説教題：新しい天と新しい地**

## 1　「天の御国が近づいたから」

イエス・キリストが宣教を始められたとき、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と語られました。

私たちは天の御国に向かってこの地上を巡礼者のように歩んでおります。その天の御国、いったいどのようなところなのか。意外に皆さんバラバラのことを考えているようです。おそらく聖書の中に、天の御国についての具体的説明がそれほど多くないことも原因なのでしょう。でも、私たちが向かっている目的地がどんなところなのかわからないというのも変な話です。

今朝は、イザヤ書を開き、天の御国の姿を御言葉からもう一度整理していきたいと思います。

## 2　約束の地

### （1）新しい天と新しい地

神はこの世界をお造りになり、六日目に創造のわざをすべて終えられたとき、「見よ。非常に良かった」と満足されました。

ところが、ご存じのように私たちの先祖であるアダムとエバが神の御言葉にそむき、罪を犯しました。そのときからこの世界に持ち込まれた罪は大変に深刻な影響をもたらしてしまいました。どこかを手直しすれば元に戻るというようなレベルでは全くありません。

果てしのない人間の欲望は、この地球の環境をおびやかすまでになってしまいました。人々は人間の知恵で何とか解決しようとします。でも、神の解決は違います。17節。「見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。」

罪に汚れてしまったこの世界を全く新しいものに造りかえる。これが神のご計画です。

### （2）いつまでの楽しみ喜べ

その新しい世界で、人間はどのよう生きるのか。18節前半。「だから、わたしの創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。」

ところが日本人である私たちは、楽しみ喜べと言われても、とまどってしまう。楽しむことは怠けることだと罪悪感と結びつけてしまいます。

もちろん神は、怠けてもよいと言っているのではありません。21節。「彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。」

新しい天と地でも労働ということがあります。なんだ働かなければならないのか。がっかりする方もいるでしょう。どうしてがっかりするか。この世で働くことが大変なことだからですよね。働いても報われないことが沢山あるから、働くというとマイナスのことしか思い浮かばなくなっている。

ところが、新しい天と地では違う。22節。「彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。」「彼らは無駄に労することもない。」つまり、働いた

分にはきちんとした報いが必ず与えられていく。これは本当に嬉しいことではないですか。必ず報われるのであれは、働くことが楽しくなる。喜びがあります。

天国というところは時間をもてあまして暇なところではないのか。そんな心配をなさる方もいます。全く心配する必要はありません。毎日が楽しくて楽しくて、時間があっという間に過ぎていく。そして同時に、充実した時間がゆっくりと流れていく、そんなところではないかと思うのです。

### （3）動物たちにも救いが及んでいく

新しい天と新しい地のすばらしさは人間ばかりではない。動物たちにも及んでいきます。25節。「狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように、わらを食い、蛇は、ちりをその食べものとし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。」

昔テレビで「野生の王国」という番組がありました。あれを見ながら動物の世界は弱肉強食の世界だと学びました。しかし聖書によれば、弱肉強食というのは実は異常な出来事なのです。神が最初に造られた世界には全くなかったことです。だから今、動物たちもうめく。苦しんでいる。

しかし新しい天と新しい地では、もはや弱肉強食ということはない。狼と子羊がともに草をはむ。ライオンは牛のようにわらを食べる。他の箇所には、「乳飲み子はコブラの穴の上で戯れる」ともあります。人間と動物は共存していく。お互いに傷つけあうことはない。いや、皆いっしょに楽しむ仲間となっていく。

## 3　神の喜び

### （1）彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ（イザヤ63章9節）

そんな天の御国は、自動的に与えられるのではありません。イザヤ書の63章9節にこんな御言葉があります。「彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、御自身の使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって主は彼らを贖い、昔からずっと、彼らを背負い、抱いて来られた。」

主は私たちの所に降ってきてくださいました。いっしょに苦しんでくださいました。私たちを背負い、抱いてくださる。

今もそのようにしてくださる。病む者とともいっしょに苦しんでくださる。悲しむ者といっしょに悲しんでくださる。痛みや悲しみとともにしてくださりながら、私たちを抱きかかえてくださる。背負ってくださる。

主に尋ねたとしましょう。「主よ。どうして私を背負ってくださるのですか。」そうすると、主は答えられます。「わたしは、あなたを天の御国に迎えたい。わたしはあなたといっしょに天の御国で楽しみたい。だからわたしはどんなことをしてでもあなたを天の御国へ抱きかかえ、背負っていきます。」

### （2）わたしの民を楽しむ

そんな思いを持っておられる主に背負われている私たちです。それなのに、なお私たちは過去の罪を思い出して苦しくなることがあります。やっぱり赦されないのではないかと自分を責めることがあります。

でも主は言われる。「先のことは思い出されず、心に上ることもない。」主がこう言ってくださるのです。そうすると、私たちもい

ちいち過去のことで自分を苦しめる必要がない。そういうことになります。神は、ただひたすら、喜び楽しみなさいと言われるだけです。

私たちはよく口にします。「神を喜ばせる者にならなければ。」多くの方が誤解をしています。聖書には何と書いていますか。私たちに、まず喜びなさいと書いているでしょ。私たちが喜ぶので、神がいっしょに喜んでくださる。そういう順番です。私たちが心から満足し、喜びが心の中にあふれるようになっていくとき、神は「ああ、本当に嬉しい」と言ってくださる。それが新しい天と新しい地で与えられている約束です。

私たちは今そんな世界に向かってまた一歩歩みを進めて参りたいと願います。